

目次

- 二十歳の頃の読書 / 柴田 昇
My favorite book at the age of twenty / Laurie Jarvis
先生におすすめする本
図書館からのお知らせ
図書館の人気映画発表（平成14年4月～12月分）

二十歳の頃の読書

教養学科 助教授 柴田昇

二十歳の時は学生でしたが本はあまり読まなかったもので、思い出に残る読書体験といわれるとかなり困ります。その頃買った本のほとんどは売り払ったり人にあげたりでもう手元にありませんし。とにかく毎日あわただしくて、落ち着いて読書しようという気分にはなかなか出来なかったのです。それでもわずかな記憶の中から無理やり思い出してみると、現在の専門分野である歴史の本は一応少しは読んだような気がします。日本中世史で大活躍していた（今でも現役ですけど）網野善彦さんの『無縁・公界・楽』（平凡社）とか、網野さんのライバルみたいな位置にあった安良城盛昭さんの『天皇・天皇制・百姓・沖縄』（吉川弘文館）とか。網野さんの一連の著作は、隆慶一郎さんの小説などにも影響を与えていて、ちょっと骨が折れますが今でもお勧めできます（歴史学の専門書としては相当おもしろくかつ読みやすいものが多いです）。でもこれらは、そもそもは授業やレポートの必要に迫られて読んだもので、自分で関心を持って取り組んだというわけではありません。

小説や随筆もすこしは読みました。筒井康隆・小林信彦・藤沢周平あたりの作品は好きでした。ただ、今の自分の中にそれらの影響が残っているような気は、あまりしません。ぼくは本や映画ですぐ泣いてしまう方で、涙した小説は結構たくさんあるはずなのですが、今あらためて考えてみたとき、影響・衝撃をうけたと言えるものが思い出せません。やはりプロの書いた作品には、いろんな背景とか出典とか仕掛けがあって、それらを理解したり推測したりする能力がないと、十分には楽しめないのだと思います。二十歳の時はただなんとなく活字を目で追っただけというか、雰囲気を楽しんでいただけのような気がします。

唯一、明瞭に記憶に残っていると言えるのは、朝日文庫に入っている本多勝一さんの作品群です。中学で読書感想文のために『カナダ・エスキモー』を読まされたときはなんとも思わなかったのですが、十九歳の頃にたまたま読んだ『中国の旅』は衝撃的でした。そのほか『殺される側の論理』『事実とは何か』など、その頃の自分としてはかなり一生懸命読んだのを覚えています。意見そのものを書く

のではなく、事実によって何ものかを表現するという書き方があるのだということを、本多さんの著作から教わったと思います。ただもう十年近く再読してないので、今読んだらまったく違う感想を持つかもしれません。二十歳の時の印象が強烈な分、再読して失望するのがちょっと怖いですね。

こんな具合で、二十歳の時はほんの少ししか読書をしていません。読んでも表面的に眺めただけのものがほとんどだし、自分自身それ以上の読み方が必要とも思っていませんでした。だから学生諸君に対して、学生時代にたくさん本を読んでおけなんてとても言えません。ただ最後にちょっとだけ付け足しておく、ぼくが読書を本気で始めたのは二十二歳の時でした。そして意外なことに、読書に打ち込むことはものすごく面白いことだったし、それによって救われたような気がするさえあったのです。だから、今二十歳くらいの皆さんには、少しでも気が向いたら本は読んどいてもいいと思うよと、小さい声ですが言っておきたいと思います。

二十二歳以後の読書についてなら書くことは山のようにあるのですが、今回はそういうテーマではありませんでしたので、それについてはまた機会があればということで。

MY FAVOURITE BOOK AT THE AGE OF TWENTY

教養学科 招聘助教授 Laurie Jarvis

At the age of twenty, I was in my third year of studies at the University of British Columbia in Vancouver, B.C. With a full load of courses and a part-time job, I had no time to read books for pleasure. Any time I had for reading was spent with textbooks and essays, reports and anthologies. Most of what I read at university was interesting; some was not.

However, in my first year, I had the fortune to take a general course in English literature with a professor named Ira Nadel. In his class, students were introduced to writings as old as ‘Beowulf’ and ‘Canterbury Tales’, to the more modern poetry of e.e.cummings and Maya Anjelou. Somewhere in the middle of this course we came to 19th century fiction. I must confess that at first I thought, “Oh great. Stuffy old stories written in stuffy old language.” But Professor Nadel had a particular liking for the fiction of this era and the passion and liveliness he showed when discussing it had a deep effect on me. We read only two works from this time period, but I was hooked. In fact, I enjoyed that course so much that in my third year, I signed up for a course focussing on literature from just the 19th century.

We read many novels including Wilkie Collins’ ‘The Moonstone’, Charles Dickens’ ‘Bleak House’, Thomas Hardy’s ‘Tess of the D’urbervilles’, Charlotte Bronte’s ‘Wuthering Heights’ and one of my absolute favourites, Jane Austen’s ‘Emma’. Debate about these stories was always lively, and Professor Nadel unfailingly led his students to appreciate the wit, humour, subtlety and incisiveness of the authors. He inspired me to enjoy many books that I might have otherwise overlooked.

The 19th century was a time of great social, political and technological change. It was also a time of great literature that will be enjoyed for ages to come. I still keep copies most of the novels I read in Professor Nadel’s class and re-read them whenever I can.

☆ 学生からのおすすめ ☆

本学の学生から「江南短大の先生方におすすめしたい本」を募りました。
楽しい本、こころに残る本、映画をご紹介します。

「ごきげんなすてご」 いたうひろし 作 徳間書店

「弟が生まれておかあさんは弟ばかりかわいがる。それならわたしはすてごになろう…」
そしてもらわれ先を探すのですが…。
家出した女の子とすてごなかまの動物たちとのユーモアいっぱいのお話の中にちょっとホロリとする
ところもあったりするお話です。読み終えたあと、口元がゆるんで心がちょっぴりホンワカします。
むずかしい本ばかりいつも読んでいらっしゃる先生方、たまには絵本もどうぞ！！

山下麻規子（社会福祉学科 1年）

「だいじなだいじなたからもの」 小森まなみ 著 主婦の友社

正直、先生方ではなく僕が読みただけです。小森まなみさんは、東海ラジオ（PM10:00～
10:30 日曜日）のパーソナリティーをやっていて、凄くおもしろいラジオです。おもしろいという
よりも、あたたかくなるラジオです。この本はリスナーからの評判もよく、僕も読みたいと思い、今
回書きました。ラジオの方も聴いてみてください。

田村直也（社会福祉学科 1年）

「世界がもし100人の村だったら」 池田香代子 著 マガジンハウス

このような事ももしかしたらありえるのだなあと不思議に思う一冊です。

鈴木奈保子（社会福祉学科 1年）

「ふたり ～私たちが選んだ道～」 鎌形睦美 著 KTC 出版

新婚7ヶ月目に交通事故で一生車椅子生活になってしまった夫とその妻のお話です。夫婦として
だけでなく、人としてのふたりの強さや愛を感じました。

大野千愛（生活科学科 2年）

「きらきらひかる」 江國香織 著 新潮文庫

同性愛者の夫とアルコール中毒の妻の生活を描いた小説です。彼等の繊細で素直な心とそれゆえ
に社会に適応できない葛藤が伝わってきて色々と考えさせられます。

井口朋子（生活科学科 2年）

「木の実とともだち」 下田智美 著 偕成社

これからの季節、秋の山を散策するのが楽しみになります。自分も動物になったつもりで秋に触
れることができます。

山口陽子（幼児教育学科 2年）

「ヴィーナスという子」 トリィ・ヘイデン 著 早川書房

トリィ・ヘイデンさんが書いている話です。私はこの人の本が好きで、よく読んでいたんだけど、障害をもった子の成長が見られるのでとてもいい。かわいそうで泣きそうになる所もあるけど、感動できるので、オススメです。

伊神知香 (幼児教育学科 2年)

「もものかんづめ」と「さるのこしかけ」 さくらももこ 著 集英社文庫

さくらももこのこの本は、エッセイになっていて、実際にあった出来事などおもしろおかしい事だらけで、楽しめる本です。さくらももこシリーズのどれかの1ページ目に本人の七五三の写真が載っていました。ぜひ見て下さい！

鈴木奈保子 (社会福祉学科 1年)

「わたしはトメ、19歳」 中田光彦 著 リブリオ出版

老人ホームでの暮らしについて書いている本で、小学生とかでも理解できるおもしろい本です。トメさんという69歳のおばあさんの周りで起こっているいろんな出来事を取り上げて、老人ホームがどう対処していくかや、いろんな人達とのやりとりが簡潔に書かれていて飽きることなくすぐに読めますよ。

川野直美 (社会福祉学科 1年)

「いかだはぴしゃぴしゃ」 岸田衿子 著 福音館

この本は私が幼稚園の時に読んでもらった事のある本で動物がいっぱい出てくるので、とても印象に残っていました。

水野泰衣 (幼児教育学科 2年)

「ポカホンタス」 ディズニー映画

自分が今まで見た中で一番感動した。

(生活科学科 1年)

「TARZAN」 ディズニー映画

ジャングルの中でゴリラに育てられるターザンのお話。自分は周りのゴリラ達と容姿が違いそのことでいじめられたりするが、立派に育ち、最後はみんなに認められる存在になった。Disney映画で私が最も好きな作品で、おもしろさあり、涙ありの名作です。

(生活科学科 1年)

「YAMAKASI」 映画

「ヤマカシ」はアクション映画です。最近ではコンピューターグラフィックの技術を駆使してアクション映画が作られるけど、やっぱり生身のアクションの方が僕は好きです。ジャッキー・チェンも好きだね。

竹内一紘 (生活科学科 1年)

「ぼちぼちいこか」 マイク＝セイラー 著 偕成社

かばが主役のとってもほのぼのした絵本です。あせらず、ゆっくり、ぼちぼちいこう、というのがとても伝わってくる暖かいお話です。

(社会福祉学科 2年)

「ぼくがげんきにしてあげる」 ヤーノシュ 作 徳間書店

「大人の絵本」、「子供の絵本」でなく「ヤーノシュの絵本」です。トラくんのワガママぶりがかわいいです。

小出亜沙子 (生活科学科 2年)

「もうひとつのアンパンマン物語」 やなせたかし 作 PHP 社

アンパンマンが子供向けだとは思わなくなります。

(生活科学科 1年)

「たべもののたび からだの本 2」 かこさとし 作 童心社

幼い頃。絵を見るだけで、とても楽しく、食べ物に顔が描かれていて、とても読みやすかったです。自分も旅をしている感覚で見えていました。

ぜひ、読んでみて下さい。

林 芙美 (幼児教育学科 2年)

「愛でもくらす」 ビートたけし 著 祥伝社

ビートたけしのことを好きな人は、たぶんこの本も好きだと思います。ビートたけしはとても魅力的な人物です。人間の生と死にいつも目を向けているものだと思います。この本は、とても元気がでる本です。いちどよんでみてください。きっと、つづけて読んでしまいますよ。

服部郁恵 (幼児教育学科 1年)

図書館からのお知らせ

今回、みなさんからお薦めいただいた本は図書館に備え付けました。ぜひご覧ください。図書館では皆さんのこんな本が読みたい、こんな映画を観たいという希望を受付けています。リクエストボックスが設置してありますので希望を用紙に書いてお入れください。

本学図書館 AV ルームで平成 14 年 4 月 1 日から 12 月 24 日までに映画を観た学生の数 は 1740 人でした (利用回数の延数)。人気作品を 30 位まで発表します。

順位	種類	NO.	タイトル	人数	順位	種類	NO.	タイトル	人数
1位	DVD	49	ハリー・ポッターと賢者の石	141	18位	DVD	27	ハンニバル	24
2位	DVD	34	ウォーターボーイズ	140	19位	DVD	48	チアーズ	23
3位	DVD	66	モンスターズインク	94	20位	DVD	22	リトルダンサー	22
4位	DVD	54	GO	86	20位	L D	220	羊たちの沈黙	22
5位	DVD	65	バトルロワイヤル	76	21位	DVD	20	インタビュー・ウィズ・バンパイア	21
6位	DVD	50	冷静と情熱の間	70	21位	DVD	55	VOIDック	21
7位	DVD	53	シュレック	62	22位	DVD	12	いつでも会える・君のためにできること	19
8位	DVD	25	フランダースの犬	52	22位	DVD	44	転校生	19
9位	L D	237	美女と野獣	51	23位	DVD	10	グリーンマイル	18
10位	DVD	64	ピーターパン	47	23位	DVD	43	ハムナプトラ	18
11位	DVD	52	千と千尋の神隠し	41	24位	L D	272	天使にラブソングを	17
12位	DVD	15	チャーリーズエンジェル	40	25位	DVD	67	フルモンティ	16
13位	DVD	57	アメリ	32	26位	DVD	21	ヴァージン・スーサイズ	15
14位	DVD	63	ダンボ	30	26位	DVD	62	ビューティフル・マインド	15
15位	DVD	68	ロード・オブ・ザ・リング	29	27位	DVD	61	ダンサー・イン・ザ・ダーク	14
16位	DVD	24	白雪姫	26	28位	DVD	5	エイミー	12
16位	DVD	32	オースティン・パワーズ・デラックス	26	28位	DVD	39	草原の輝き	12
17位	DVD	7	シックスセンス	25	28位	DVD	45	ナイトメア・ビフォア・クリスマス	12
					28位	DVD	46	ロード・オブ・ザ・リング(アニメ版)	12

一般に新着の映画に人気がありますが、購入してから何年たっても人気のある作品があります。「美女と野獣」、「羊たちの沈黙」、「天使にラブソングを」もそんな作品の代表です。

「美女と野獣」は、笑いと感動のあるロマンティックなディズニーアニメという本学学生の好きな映画の要素を押さえている名作。

「羊たちの沈黙」は残酷で気持ち悪く怖い映画ですが、狂気の天才精神科医・殺人鬼レクター博士 (アンソニー・ホプキンス) と FBI 捜査官クラリス (ジョディ・フォスター) がこの映画に目を離せない魅力を与えています。

「天使にラブソングを」はクラブ歌手 (ウーピー・ゴールドバーグ) が修道女になってゴスペルを聖歌隊に…ワクワクして気分爽快! 楽しい映画です。

このほかにも名作・人気作がたくさんあります。所蔵している映画資料の全リストを用意してありますのでご覧になってください。映画はだいたい講義の空き時間に観ることが多いので、長時間の作品を観るのをあきらめる人もいますが、長時間の作品を観る方は、2時間以上の作品は2、3度に分けて観ているようです。